

2. シラサギのPCB蓄積調査

昭和47年に浦和市三空山崎のシラサギの集団営巣地に於て、シラサギの大量斃死があり、その際2個体についてPCBの蓄積量を調査した。その結果については当所年報第1号に記載した。ところが昭和48年にも同地に於て5月下旬より6.7月にかけて大量の斃死がおこった。この原因の追究については各分野からの総合的な方策の実施がまたれるが、とりあえず食物連鎖の観点から前年に引き続きPCBの蓄積調査を行った。供試個体はコサギ8成鳥、体重334g、48年5月24日落鳥1個体である。分析結果は次表のとおりである。

PCB (ppm)		全水銀 (ppm)	
羽	5	小羽毛	2.49
クチバシ	59	大羽根	1.45
胸筋	140		
心臓	170		
肝臓	360		

非水

何分にも調査資料が少く、又単に蓄積量の分析を行ったのみであるので、これらの結果から何らかの結論を導き出せるものではない。唯食物連鎖の上位にあるシラサギの体内の蓄積PCBの減衰は早急には起らず、しばらくの間高原状の形を示すものと予想される。尙、本49年にも同時期、同様の斃死が起きたので、少しく規模を拡大して調査中である。

ppm